

小倉薬剤師会 7月学術研修会のご案内

謹啓 先生方におかれましては 益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
さてこの度、下記の要領にて小倉薬剤師会学術研修会を開催いたします。
ご多忙中、誠に恐縮とは存じますが、万障お繰り合わせの上ご出席頂きますようお願い申し上げます。

謹白

記

【日時】 2018年 7月 24日 (火) 19:00～

【場所】 小倉薬剤師会館 3階 研修室
北九州市小倉南区富士見2丁目8番20号

【情報提供】 19:00～19:15

『メイアクト MS 小児用細粒 10% 』

Meiji Seika ファルマ株式会社

- 【P S】
1. ヒューマニズム (倫理) : ①-1・2
 2. 医薬品の適正使用 (安全性、経済性) : ①-43、②-77・78・99
 3. 地域住民の健康増進 (薬物乱用防止、セルフメディーケーション) : ②-9

【特別講演】 19:15～20:15

座長 学術委員会 入江 利行

『抗菌薬適正使用と耳鼻咽喉科感染症

～みみ、はな、のどの急性炎症 抗菌薬は必要?～』

演者 社会医療法人 北九州病院 北九州総合病院

耳鼻咽喉・頭頸部外科 副部長 宗 謙次 先生

<講演会要旨>

耳鼻咽喉科は感染症を多く診る診療科であり、急性中耳炎、急性副鼻腔炎、急性咽喉頭炎、急性扁桃炎、扁桃周囲膿瘍など、身近な急性感染症を守備範囲としています。これらの感染症は主に細菌感染で起こるものが多く、当然ながら抗菌薬投与が必要となることが多々あります。

耳鼻咽喉科からの処方箋では、一般的にはセフェム系 (特に第3世代) やニューキノロン系の抗菌薬を目にすることが多いのではと思いますが、厚生労働省は2016年に薬剤耐性 (AMR) アクションプランを策定し、国を挙げて抗菌薬の適正使用を推進しつつあり、その中には、セフェム系、ニューキノロン系、マクロライド系の抗菌薬使用量を半減させるという目標も掲げています。当然ながら耳鼻咽喉科領域の感染症においても抗菌薬の適正使用を推進していく必要があります。

今回は、薬剤耐性 (AMR) アクションプランの簡単な概説を行い、耳鼻咽喉科領域の感染症の総論、そして各論などを、抗菌薬の適正使用という観点をふまえて紹介したいと思います。

共催：(一社) 小倉薬剤師会
Meiji Seika ファルマ株式会社